

教育改善スキル修得オンラインプログラム(科目デザイン編)の実践と今後の課題

Practice and Issues in the Future of Educational Reform Skill Learning Online Program: A Course Design Course

山下 藍^{*1} 喜多 敏博^{*1} 合田 美子^{*1} 鈴木 克明^{*1, *2}
Ai YAMASHITA^{*1} Toshihiro KITA^{*1} Yoshiko GODA^{*1} Katsuaki SUZUKI^{*1, *2}

熊本大学^{*1} 武蔵野大学^{*2}

Kumamoto University^{*1}

Musashino University^{*2}

〈あらまし〉 2019 年より「教育改善スキル修得オンラインプログラム」の第一弾「科目デザイン編」の有料版提供を開始し、修了生にプログラム受講後の反応と改善に関するアンケートを実施した。その結果、当オンラインプログラムに関して、注意、関連性、満足感については極めて高い評価が得られた一方、自信についての数値が他の要素より低いことが確認された。今後、力試しテストの見直しは勿論、受講者間の交流等、受講者の自信を高める学習支援の提供が求められる。

〈キーワード〉 インストラクショナルデザイン、科目デザイン編、高等教育、FD

1. はじめに

熊本大学は、「教授システム学に基づく大学教員の教育実践力開発拠点」として文科省教育関係大学間共同利用拠点の一つとしての活動を開始(鈴木ほか 2024)し、2019 年より「教育改善スキル修得オンラインプログラム」の第一弾「科目デザイン編」有料版提供を行ってきた。現役の大学教員は勿論、将来的に高等教育機関での教育に携わることを希望する大学院生等を対象に、授業における学習目標、評価方法、授業方法の設計に関する知識やスキルの習得を目的とする。2019 年 12 月に第 1 期の学習を開始し、2024 年度には第 11 期の受講生を迎えた。これまで 35 名の修了者を輩出し、現在 4 名が 2025 年 3 月の修了に向けて受講中である。本論では、有料版の学習がどのように行われているのかについて明示するとともに、受講者アンケートで確認された本プログラムの印象や今後の課題について明らかにする。

2. 有料版の学習概要

「科目デザイン編」の学習は、モジュール 1「大学教育に関する 5 つの物語」、モジュール 2「認知的発達を促す授業方法」、モジュール 3「評価と単位認定の見直し」、モジュール 4「学習目標の高度化」で構成される。有料版では、オリエンテーションモジュールを経

てから、モジュール 1 以降の学習に入り、途中 2 回の対面学習を実施し、教員による添削指導もプログラムに含まれる。有料版での学習の流れを図 1 で示した。

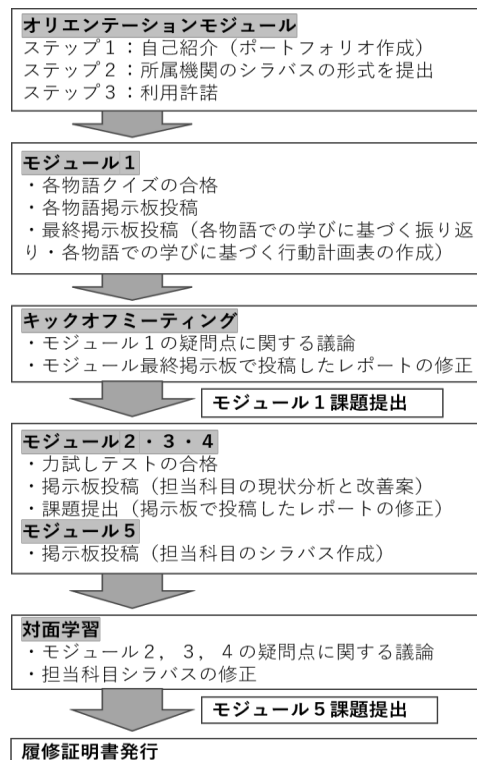


図 1 有料版学習の流れ

モジュール4までの学習を終えると、モジュール5「最終課題」に進み、これまでの学びを振り返り、担当科目のシラバス作成を行う。最終課題に合格すると、プログラムの修了者として履修証明書が発行される。

3. 受講者アンケート調査

アンケートは各期の対面学習終了後（第3期は履修証明書発行時）に実施し、第3期生から10期生（修了者19名の内15名（回答率78.9%））の回答を検証した。設問内容は、①オンラインプログラムに関する注意、関連性、自信、満足度の度合いを7段階で回答してもらい、②各モジュールの学習内容に関する改善点について記述してもらった。

4. 結果と考察

4.1. オンラインプログラムの印象

図2の通り、注意、関連性、満足感においては、7点中6点台後半を記録した。注意では、「学生が自ら学ぶ力を育てるべきという考え方は、講義はわかりやすく教えると思っていたので衝撃を受けた」、「新しいアイデア、インスピレーション、モチベーションをたくさん与えてもらった」等、これまでとは違う視点での学びに関する意見が多く、関連性では、「自分がやりたいと感じている授業に近づく感じがした」、「様々なアイデアをもとにして、私自身が実際に担当する授業の具体的な改善案を考えることができた」等、自身の授業改善との関連についての意見が多かった。満足感では、「目指す授業のあり方が明確になった」、「具体的に何から改善を始めればよいか目途がついた」等、授業改善の方向性に関する意見が多かった。一方、自信においては、7点中5点台前半であり、他の要素と比べ低い数値であった。「難しい課題でも合格することができ、講師からのコメントにもどこがどうだったから合格、考慮の余地ありなど具体的なコメントをもらえた」、「LMSで何度もテストに挑戦した後に力試しテストに合格できたことで、理解の正しさを確認することができ、自信を持つことができた」等、肯定的な意見があった一方で、「実際に自分の授業に反映させるには勇気が必要」や「練習問題を時間かけて繰り返し学習したが、力試しテストの点数が取れなかった」、「何度やっても自分の読み間違いでテストが不正解となった」等、自身の授業での応用や力試しテストに関する意見も確認された。

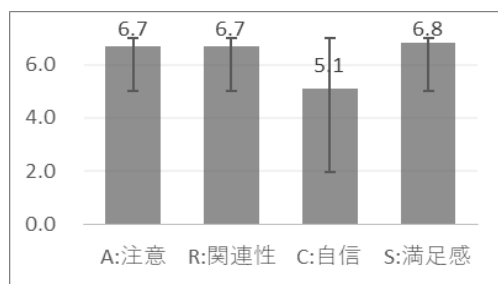


図2 オンラインプログラム受講後の反応

4.2. 各モジュールの改善点

モジュール2の力試しテストに関する意見が多く、「とにかくテストが難しすぎてくじけそうだった」等の意見が確認された。モジュール2の力試しテストについては、以前から改善を行ってきているが、近年の回答から「適切か不適切かの判断に悩むものが多くあった」や、なぜその解答なのか詳細な理由を知りたかったとの意見が見られた。その他、オリエンテーションモジュールでは、受講者同士の雑談スペースや事前交流の機会を求める意見が確認された。

5. おわりに

本論では、科目デザイン編有料版実施に伴い、受講者アンケートを通し、受講後の反応と改善点について調査を行った。今後、学習における受講者の自信を高める工夫が必要であり、その対策として、モジュール2を中心とした力試しテストの見直しは勿論、現在実施されている2回の対面学習以外での受講者間の交流等、受講者が段階的に学んでいけるような学習支援の提供を検討したい。

参考文献

- 鈴木克明, 喜多敏博, 平岡斉士, 長岡千香子 (2019) 教育改善スキル修得オンラインプログラム（科目デザイン編）の構想と無料版・有料版の公開. 教育システム情報学会第44回全国大会予稿集: 425-426. 教育改善スキル修得オンラインプログラム「科目デザイン編」.
<https://kyoten1.cica.jp/moodle/>（参照日 2024.12.15）
 熊本大学大学院教授システム学専攻「教授システム学に基づく大学教員の教育実践力開発拠点」. <https://www.gsis.kumamoto-u.ac.jp/sharing-hub/>（参照日 2024.12.15）